

# 薬品小売業で働く管理栄養士の勤務実態と要求される知識・能力

## Working Conditions, Required Knowledge and Skills for Dietitians Working for Drug Retailers

(2012年3月31日受理)

大宮めぐみ      中原 由衣      前田紗貴子      清原 昭子  
Megumi Oomiya      Yui Nakahara      Sakiko Maeda      Akiko Kiyohara

**Key words** : ドラッグストア, 管理栄養士の知識・能力, デルファイ法, 内容分析, 医薬品と食品・食事, コミュニケーション能力

### 概 要

薬品小売業で働く管理栄養士の実態と要求される知識・能力を明らかにすることを目的とし、デルファイ法による2回連続のアンケート調査を実施した。自由記述回答の分析には内容分析の手法を用いた。

調査・分析の結果、薬品小売業に勤務する管理栄養士は、多くが販売に従事しており、商品の紹介や情報提供、POP作成、栄養情報の提供を行っていた。学生時代に学んで活かされており、もっと学んでおけばよかったと感じる科目は、臨床栄養学、基礎栄養学であった。また、薬品小売業に勤務する管理栄養士の特徴として、栄養教育論（栄養指導論）を学んで役立っていることがあげられた。このことは、回答者の多くが販売に従事しており、消費者に対して情報提供を行っているためと推測される。

また、2回連続調査の結果、職場で管理栄養士として求められていると感じる知識・能力は、コミュニケーション能力、健康食品に関する知識が上位にあげられた。その他に求められる知識として、カウンセリングに関する知識・能力、医薬品に関する知識、サプリメントに関する知識・能力があげられた。

本研究の結果から、薬品小売業に勤務する管理栄養士は、健康食品、サプリメントに関する知識が要求されており、コミュニケーション能力が必要であることを強く感じていることが示唆された。

### 1. は じ め に

(社)全国栄養士養成施設協会が実施する就職実態調査<sup>[1]</sup>によると、平成22年度に管理栄養士・栄養士養成課程を卒業した人数は18,256名であった。その内、栄養士業務への就職者は10,207名である。また、過去数年間の同調査によると、栄養士業務就職者のうち病院や工場・事業所等以外の業種への就職者として報告された者の中で、薬局関係の就職者としてあげられている者の数は、平成19年は120名<sup>[2]</sup>、平成20年度は188名<sup>[3]</sup>、平成21年度は185名<sup>[4]</sup>となっている。

このように、薬品小売業で働く管理栄養士は存在して

いるものの、その実態については不明であり、仕事内容、要求される知識・能力についても把握されていない。今後、管理栄養士が企業で勤務する上で、健康・栄養をキーワードとする薬品小売業は、重要な活躍のフィールドとなることが予想される。そのため、業種特有の要求される知識・能力を明らかにすることが必要である。

このことより、本研究では薬品小売業で働く管理栄養士の勤務実態、要求される知識・能力を明らかにすることを目的とした。

## 2. 方 法

### (1) 本研究の流れ

本研究の流れを図1に示す。

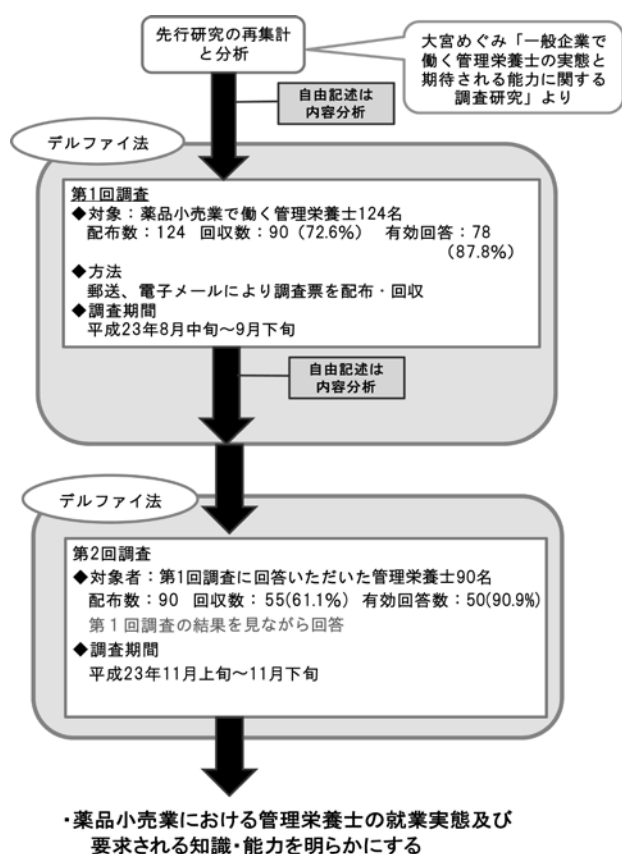


図1 本研究の流れ

まず、薬品小売業に勤務する者の実態は不明であることから、先行研究<sup>[5]</sup>より、薬品小売業で働く管理栄養士の回答のみを抜き出し、改めて集計を行った。この結果を基に、第1回調査の調査票を作成した。

本調査は、同じ対象者に繰り返し調査を行うデルファイ法<sup>[6]</sup>を用いた。デルファイ法を採用した理由として①専門家の意見集約に適していること、②同じ対象者に複数回の調査を行うことより精度の高い意見集約をはかることが挙げられる。

第一回調査の対象者は、調査協力の同意が得られた薬品小売業3社に勤務する管理栄養士とした。

次に、第1回調査の項目は以下のとおりである。

- ①属性（部署、保有資格、最終学歴、年齢、性別）  
（選択方式）

- ②仕事内容（選択方式）

- ③研修会・勉強会の参加の有無、参加の頻度  
（選択方式・自由記述方式）

- ④学生時代に学んで仕事に活かされていると感じること（選択方式）

- ⑤学生時代にもっと学んでおけば良かったと感じること（選択方式）

- ⑥今後、獲得したい資格（選択方式）

- ⑦今後、獲得したい商品の知識（選択方式）

- ⑧今後、獲得したい知識・能力（選択方式）

- ⑨職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力（自由記述方式）

調査項目の設定理由を以下に述べる。

先行研究の再分析の結果から、薬品小売業で働く管理栄養士は、研修会や勉強会に参加する頻度が高い傾向にあったため、研修会・勉強会参加の有無や、参加の頻度を問うこととした。他にも「今後獲得したい知識・能力は何か」という問いに対し、「商品知識」と回答した者が多かったことから、今後獲得したい商品知識について具体的に問うこととした。

次に、この第1回調査の結果を集計・分析した。自由記述回答の分析には、Berelson, Bの内容分析の手法<sup>[8]</sup>を用い、意見の整理とカテゴリ化を行った。この結果をもとに、第2回調査の調査票を作成した。

第2回調査の対象者は、第1回調査回答者とし、前回の集計・分析結果を第2回調査票とともに返送することで、対象者間の意見の共有を促した上で実施した。

第二回調査項目の設定方法について述べる。まず、属性と仕事内容については、第1回調査と同様の調査項目を再度使用した。

「今後、獲得したい商品知識」については、第1回調査と同様の選択肢を使用するが、第1回調査の結果を提示し、優先順位が高い順に3つ選択を依頼した。

「職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力」については、第1回調査「職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力」についての分析結果を基に選択肢を設定した。

手順は、まず、第1回調査の内容分析の結果であるカテゴリ名から、これらの中であげられた知識・能力すべてに番号を振りわけ、選択肢を作成した。次に、これら

の選択肢から、回答者が職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力を、優先度が高い順に7つ選択するよう依頼した。

この質問形式により、「職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力」について、第1回調査においては回答者の意見の抽出を行い、第2回調査では、その意見を集約した。

第2回調査の調査項目は以下のとおりである。

- ①属性（部署、保有資格、最終学歴、年齢、性別）  
（選択方式）
- ②仕事内容（選択方式）
- ③今後獲得したい商品の知識  
（第1回調査の結果を提示、3位まで順位付け）
- ④職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力  
（第1回調査の結果を提示、7位まで順位付け）

調査の概要は以下のとおりである。第一回調査の調査期間は、平成23年8月中旬～9月下旬とし、配布数124、回収数90（72.6%）、有効回答数78（87.8%）であった。第2回調査の調査期間は、平成23年11月上旬～11月下旬であり、第1回調査時に回答を得た者を第2回調査の対象者とし、配布数90、回収数55（61.1%）、有効回答数50（90.9%）であった。

## （2）内容分析の手法

自由記述回答の分析には、内容分析の手法を用いた。内容分析とは、発話内容や文章などの質的データを量的に分析する手法である。

内容分析の手順を以下に述べる。

はじめに「職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力は何か」という「研究のための問い」と「職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力は〇〇である」という「問いに対する回答」を決定する。すべての回答の中からこの〇〇の中に該当する記述を収集する。このとき、「問いに対する回答」に当てはまらないものは排除する。

第2段階では回答のデータ化を行い、不要な部分を削除し、記録単位を作成する。

第3段階では基礎分析を行い、同一表現や表現は異なるが同じ意味を持つ記録単位を集約する。

第4段階では、本分析を行い、基礎分析をもとに再度、同一表現や表現は異なるが、同じ意味を持つ記録単位を集約し、ひとつのカテゴリとする。そして、各カテゴリを表すカテゴリ名を作成する。

最終段階として、作成されたカテゴリの信頼性を確認するために、分析者以外の第3者が分類を行なった場合の再現性を確認する。方法は、全記録単位の中から約10～20%の記録単位を無作為抽出し、管理栄養士養成に携わる管理栄養士資格保有者2名に提示し、分析者が作成したカテゴリ名の中で最も合致すると思われるものに、分類を依頼する。その結果と分析者らの分類結果の一致率をスコットの式を用い、検討した。スコットの式を次に示す。

$$\pi = \frac{Po - Pe}{1 - Pe}$$

Poは観察された一致率であり、Peは偶然による一致率である。つまり、スコットの式は、獲得された一致率と偶然による一致率の間の現実の差（Po-Pe）を、獲得された一致率と偶然による一致率の最大の差（1-Pe）で割った値である。Poは観察された一致率、すなわち、独立に同じデータをカテゴリ化しているとき、2人の分析者が一致する判断の割合を示す。

また、Peは、偶然による一致率であり、次の式により算出される。

$$Pe = \sum_{i=1}^k Pi^2$$

偶然による一致率Peを算出するための上記の式のうち、「k」はカテゴリ数、「Pi」は「i」のカテゴリに分類したサンプル数の全サンプル数中の割合である。

この一致率がおおよそ70%以上の一致率を示した場合は、カテゴリの信頼性を確保しているとされている。

## 3. 結 果

### （1）第1回調査の結果

#### 1）属 性

回答者らが各職場において所属している部署別の人数は、78人中販売が75名、営業が2名、その他が1名であった。

年齢別の人数は、78人中20～29歳が76名、30～39歳

が1名、40～49歳が1名であった。性別で人数は男性が6名、女性が72名であり、20歳代の女性が多かった。

回答者全員が管理栄養士免許を保有しており、平均保有資格数は3.3個だった。(表1)

表1. 回答者の保有資格

n=271 (78名分の回答) (複数回答)

保 有 資 格	回 答 数
管理栄養士	78
栄 養 士	78
食品衛生管理者	36
食品衛生監視員任用資格	25
フードスペシャリスト	19
栄養教諭免許（一種）	9
栄養情報担当者（NR）	6
食生活アドバイザー	4
サプリメントアドバイザー	2
栄養教諭免許（専修）	1
フードコーディネーター	1
栄養教諭免許（二種）	0
食育栄養インストラクター	0
フードサイエンティスト	0
そ の 他	12
合 計	271

最終学歴は、4年制大学（管理栄養士養成課程）卒が57名、4年制大学（管理栄養士・栄養士養成課程）卒が19名、専門学校（栄養士養成課程）卒が1名、短期大学（栄養士養成課程）卒が1名であった。

## 2) 現在の仕事内容

現在の仕事の内容は、回答数が多かった順に販売が66回答、商品の紹介や情報提供が62回答、POP作成が54回答、栄養情報の提供が48回答、商品の発注や配送が36回答、電話対応が31回答、栄養指導が20回答、事務作業が19回答となっていた。ほとんどの回答者が「販売」、「商品の情報提供」業務を行っていた。また、約6割の回答者が「栄養情報の提供」を行っていた。(表2)

表2. 現在の仕事内容

n=392 (78名分の回答) (複数回答)

仕事内容	回答数
販 売	66
商品の紹介や情報提供	62
P O P 作成	54
栄養情報の提供	48
商品の発注・配送	36
電話対応	31
栄養指導	20
事務作業	19
社員教育	8
勉強会の開催	7
パンフレットの作成	7
取引先との交渉	4
価格交渉	3
営 業	2
営業補佐	2
栄養価計算	2
納品書作成	2
献立作成	2
メニュー提案	2
衛生管理	2
講師活動（食育関係）	1
企 画	1
営業用資料作成	0
見積書作成	0
講師活動（料理関係）	0
講師活動（病院・施設等）	0
メニュー開発	0
商品開発	0
調理作業	0
食品分析	0
衛生検査	0
そ の 他	11
合 計	392

## 3) 研修会・勉強会への参加状況

なんらかの研修会や勉強会に参加している人は78名中、76名であり、ほとんどの回答者が参加していた。参加していると回答した者の研修会・勉強会の内訳は、社内研修が最も多く75回答、次に他社研修が7回答、栄養士会が6回答、その他が2回答となった。(複数回答)(図2)

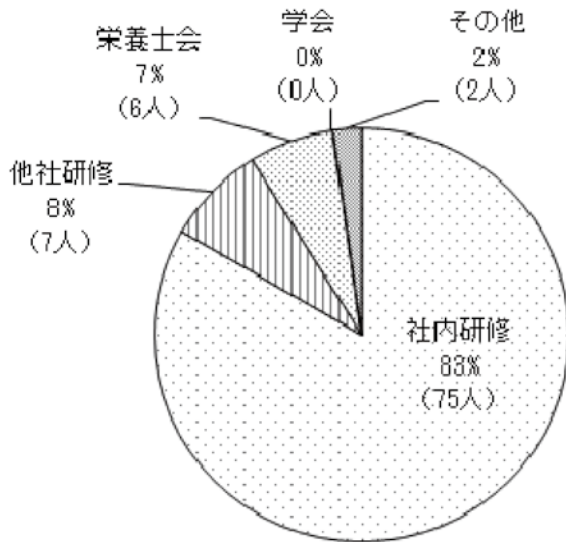


図2 参加している研修会・勉強会の内訳  
n=140 (78名分の回答)

社内研修の内容としては、管理栄養士セミナーや化粧品セミナー、ヘルスケアカウンセラー育成セミナー、商品知識勉強会、医薬品勉強会、登録販売者セミナーなどがあり、他社研修ではNR講習や化粧品メーカーのセミナーなどがあげられた。

参加している頻度は1ヶ月に1回が60回答、2ヶ月に1回以下が39回答、3ヶ月に1回以下が9回答となった。少ない者でも2ヶ月に1回はなんらかの研修会・勉強会へ参加していた。(表3)

表3. 研修会・勉強会に参加している頻度  
n=128(78名分の回答)(複数回答)

参加している頻度	回答数
1か月に1回	60
2か月に1回以下	39
3か月に1回以下	9
1年に1回	7
1か月に2回	5
4か月に1回以下	3
1か月に3回以上	3
その他	2
合計	128

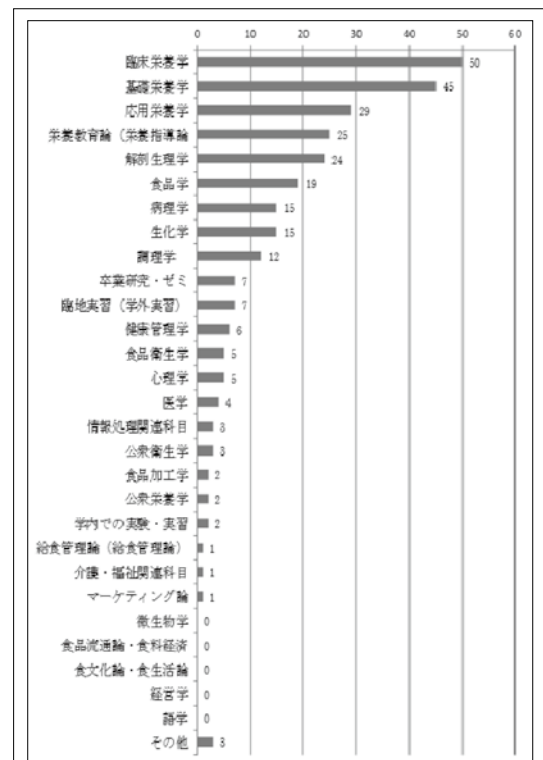
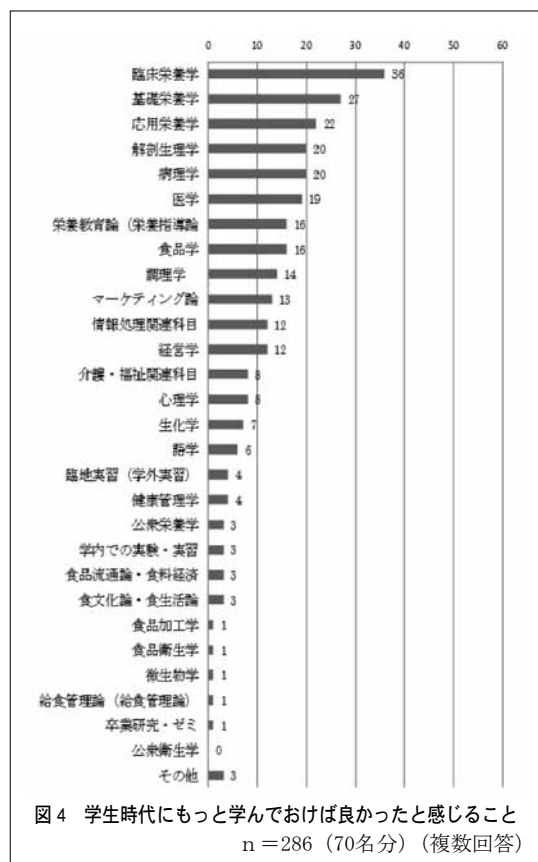


図3 学生時代に学んで活かされていると感じること  
n=286 (61名分)(複数回答)

4) 学生時代に学んで仕事に活かされていると感じること  
「学生時代に学んで仕事に活かされていると感じること」は臨床栄養学が50回答、基礎栄養学が45回答、応用栄養学が29回答、栄養教育論が25回答、解剖生理学が24回答、食品学が19回答、病理学が15回答、生化学が15回答、調理学が12回答となった。このことから「臨床栄養学」「基礎栄養学」「応用栄養学」といった栄養学関連の知識が役立っていると考えられる。(図3)

5) 学生時代にもっと学んでおけば良かったこと

「学生時代にもっと学んでおけば良かったこと」は臨床栄養学が36回答、基礎栄養学が27回答、応用栄養学が22回答、解剖生理学が20回答、病理学が20回答、医学が19回答となった。「学生時代に学んで仕事に活かされていると感じること」と同様に臨床栄養学、基礎栄養学の知識が上位となった。(図4)



#### 6) 今後、獲得したいと考える資格

「今後、獲得したいと考える資格」は、サプリメントアドバイザーが45回答、登録販売者が22回答、野菜ソムリエが11回答、フードスペシャリストが7回答、フードコーディネーターが6回答、その他が12回答であった。サプリメントや医薬品に関する資格を獲得したいという回答が上位となり、薬品小売業の業種上の特徴が表れていると考えられる。(表4)

表4 今後、獲得したい資格

n=103 (78名分の回答) (複数回答)

獲得したい資格	回 答 数
サプリメントアドバイザー	45
登録販売者	22
野菜ソムリエ	11
フードスペシャリスト	7
フードコーディネーター	6
そ の 他	12
合 計	103

#### 7) 今後、獲得したい商品知識

「今後、獲得したいと考える商品知識」は、サプリメントに関することが50回答、医薬品に関することが47回答、育児用品に関することが35回答、サプリメント以外のいわゆる健康食品に関することが30回答、特定保健用食品に関することが21回答、介護用品に関することが13回答、栄養機能食品に関することが5回答、特別用途食品に関することが4回答であった。半数以上の回答者がサプリメントや医薬品に関する商品知識を得たいと考えていた。(表5)

表5 今後、獲得したい商品知識

n=210 (77名分の回答) (複数回答)

獲得したい商品知識	回答数
サプリメントに関すること	50
医薬品に関すること	47
育児用品に関すること	35
サプリメント以外のいわゆる健康食品に関すること	30
特定保健用食品に関すること	21
介護用品に関すること	13
栄養機能食品に関すること	5
特別用途食品に関すること	4
その他の食品に関すること	1
その他の商品に関すること	1
合 計	210

#### 8) 今後、獲得したい知識・能力

「今後、獲得したいと考える知識・能力」は、栄養相談・栄養指導に関することが62回答、育児に関することが42回答、疾病に関することが39回答、臨床栄養学に関することが33回答、介護に関することが16回答、基礎栄養学に関することが11回答、応用栄養学に関することが11回答、その他が1回答であった。(表6)

#### 9) 職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力

「職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力」における自由記述回答を内容分析した結果、34のカテゴリが作成された。(表7)

その結果、記録単位が出現した数が多い順に、健康食品に関する知識が16、コミュニケーション能力が16、サプリメントに関する知識・能力が14、疾病と栄養・食事の関わりに関する能力が10、栄養指導・食事指導に

関する知識が10となった。これらのカテゴリの一致率をスコットの式を用いて算出したところ、分析者1は90.7%、分析者2は96.9%となり、カテゴリの信頼性は確保されたといえる。

表6 今後、獲得したい知識・能力

n=218 (78名分の回答) (複数回答)

獲得したい知識・能力	回答数
栄養相談・栄養指導に関すること	62
育児に関すること	42
疾病に関すること	39
臨床栄養学に関すること	33
介護に関すること	16
基礎栄養学に関すること	11
応用栄養学に関すること	11
その他	1
合 計	218

表7 職場において管理栄養士として  
求められていると感じる知識・能力

n=182 (78名分の回答)

カテゴリ名	記 録 単位数	割 合 (%)
健康食品に関する知識	16	8.8%
コミュニケーション能力	16	8.8%
サプリメントに関する知識・能力	14	7.7%
疾病と栄養・食事の関わりに関する知識	10	5.5%
栄養指導・食事指導に関する能力	10	5.5%
育児に関する知識・能力	9	4.9%
栄養学・栄養・栄養素に関する知識	8	4.4%
医薬品に関する知識	8	4.4%
カウンセリングに関する知識・能力	7	3.8%
食品・食事に関する知識・能力	6	3.3%
商品に関する知識	6	3.3%
食生活・食事のアドバイスに関する能力	6	3.3%
医薬品の説明・販売・説明する能力	6	3.3%
病気に関する知識	6	3.3%
伝える・説明する能力	5	2.7%
薬と食品・食事の相互作用に関する知識	5	2.7%
接客・接遇に関する能力	5	2.7%
レシピ・メニュー・調理法に関する知識・能力	4	2.2%
健康食品の説明・販売・比較に関する能力	4	2.2%
ダイエットに関する知識	3	1.6%
判断・マネジメント・企画に関する能力	3	1.6%
情報収集・発信に関する能力	3	1.6%
スタッフ育成・教育・指導に関する能力	3	1.6%
販売に関する能力	3	1.6%
健康相談・栄養相談に関する能力	3	1.6%

カテゴリ名	記 録 単位数	割 合 (%)
マーケティングに関する知識・能力	2	1.1%
病気・健康に対するサポートに関する能力	2	1.1%
商品を提案する能力	2	1.1%
健康指導・生活指導に関する能力	2	1.1%
運動に関する知識	1	0.6%
介護に関する知識	1	0.5%
カロリー計算に関する能力	1	0.5%
常に学ぶとすること	1	0.5%
な し	1	0.5%
合 計	182	100.0%

## (2) 第2回調査の結果

### 1) 属性・仕事内容

属性、仕事内容は第1回調査の結果と変化はなかった。

### 2) 今後、獲得したい商品知識

「今後、獲得したい商品知識」において、優先順位づけを依頼した。1位を3点、2位を2点、3位を1点とし、点数付けを行った。

その結果、サプリメントに関することが93点と最も高く、医薬品に関することが80点、育児用品に関することが43点となった。また、得点とは別に、選択された度数を1とカウントした場合の人数を比較したところ、サプリメントに関すること、及び、医薬品に関することが同数となった。このことから、多くの回答者がこれらの商品知識を必要としており、その中でも優先度が高い商品知識がサプリメントに関する知識であるといえる。(表8)

表8 今後、獲得したい商品知識

n=148 (50名分の回答)

獲得したい商品知識	得 点	人 数
サプリメントに関すること	93	36
医薬品に関すること	80	36
育児用品に関すること	43	25
サプリメント以外のいわゆる健康食品に関すること	40	23
介護用品に関すること	21	14
特定健康食品に関すること	8	6
特別用途食品に関すること	5	3
その他の食品に関すること	5	2
その他の商品に関すること	5	3
栄養機能食品に関すること	0	0

※「人数」とは、点数とは別に、選択された度数を1とカウントしたもの。

### 3) 職場において管理栄養士として求められていると 感じる知識・能力

「職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力」において、優先順位づけを依頼した。1位を7点、2位を6点、3位を5点、4位を4点、5位を3点、6位を2点、7位を1点とし、順位付けを行った。

その結果、コミュニケーション能力が185点、健康食品に関する知識が151点、カウンセリングに関する知識・能力が89点、医薬品に関する知識が88点となった。また、得点とは別に、選択された度数を1とカウントした場合の人数を比較した。その結果、最も多く選択された知識・能力はコミュニケーション能力であり、得点及び選択者数のどちらにおいて優先度が高いことが示された。しかしながら、カウンセリングに関する知識・能力は、獲得した得点は高いものの、選択者数が他の項目に対して、やや少ないため、他に比べ少ない回答者の中で、より高い得点がつけられたことが推測される。このことより、この知識に関して要求されていると感じる重要度には回答者間で差があると考えられる。(表9)

#### (3) 2回連続調査における比較検討

##### 1) 今後、獲得したい商品知識

「今後、獲得したい商品知識」について第1回調査と第2回調査の結果についての意見の変化を検討した。(表10)

表10 今後、獲得したい商品知識について  
第1回調査結果と第2回調査結果の変化

獲得したい商品知識	第1回調査 回 答 数	第2回調査 得 点
サプリメントに関すること	50	93
医薬品に関すること	47	80
育児用品に関すること	35	43
サプリメント以外のいわゆる健康食品に関すること	30	40
介護用品に関すること	13	21
特定健康食品に関すること	21	8
特別用途食品に関すること	4	5
その他の食品に関すること	1	5
その他の商品に関すること	1	5
栄養機能食品に関すること	5	0

第1回調査結果と第2回調査結果について比較を行った結果、上位の「サプリメントに関すること」、「医薬品

表9 職場において管理栄養士として  
求められていると感じる知識・能力

n=345 (50名分の回答)

求められていると感じる知識・能力	得 点	人 数
コミュニケーション能力	185	30
健康食品に関する知識	151	27
カウンセリングに関する知識・能力	89	17
医薬品に関する知識	88	24
サプリメントに関する知識・能力	87	22
栄養指導・食事指導に関する能力	80	17
接客・接遇に関する能力	79	18
疾病と栄養・食事の関わりに関する知識	72	16
健康相談・栄養相談に関する能力	59	16
伝える・説明する能力	57	13
商品に関する知識	56	15
スタッフ育成・教育・指導に関する能力	52	17
販売に関する能力	48	14
医薬品の説明・販売・説明する能力	45	12
薬と食品・食事の相互作用に関する知識	40	11
育児に関する知識・能力	31	9
食生活・食事のアドバイスに関する能力	29	12
健康食品の説明・販売・比較に関する能力	28	8
栄養学・栄養・栄養素に関する知識	24	8
ダイエットに関する知識	20	7
健康指導・生活指導に関する能力	13	6
商品を提案する能力	12	5
病気に関する知識	9	3
介護に関する知識	7	3
常に学ぼうとすること	7	3
レシピ・メニュー・調理法に関する知識・能力	6	3
食品・食事に関する知識・能力	5	1
判断・マネジメント・規格に関する能力	5	3
情報収集・発信に関する能力	5	2
マーケティングに関する知識	0	0
病気・健康に対するサポートに関する能力	0	0
運動に関する知識	0	0
カロリー計算に関する能力	0	0
な し	0	0

「人数」とは、点数とは別に、選択された度数を1とカウントしたもの。



に関すること」、「育児用品に関すること」、「サプリメント以外のいわゆる健康食品に関すること」について2回の調査を通して順位に変化は見られなかった。第1回調査で6位に挙げられた「介護用品に関すること」は第2回調査では5位となった。

2回連続の調査を通して、上位4つの知識について、変化が見られなかったことは、これらの知識に同意が得られたことを意味している。薬品小売業で働く管理栄養士は、今後、これらの商品知識を獲得したいと考えており、その優先度は高いといえる。

第1回調査において、6位に挙げられた「介護用品に関すること」は、第2回調査では5位となった。これは、第2回調査において回答者に支持された結果であり、第1回調査の結果を見た第2回調査の回答者が、この商品知識を獲得したいと考えたためと推測される。

## 2) 薬品小売業で働く管理栄養士が職場において必要とされる知識・能力

職場において管理栄養士として必要とされる知識・能力において、第1回調査と第2回調査の結果についての意見の変化を検討した(表11)。

比較を行う際の留意点として、記録単位数と得点を比較するため、同じ指標として比べることは不可能である。しかし、第1回調査で挙げられた記録単位に対し、第2回調査で獲得した得点が高かったものは、職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力として、回答者らの意見が集約されたことを意味している。

その結果、第1回調査で多く挙げられた「コミュニケーション能力」、「健康食品に関する知識」において変化はなかった。「カウンセリングに関する知識・能力」、「医薬品に関する知識」については第1回調査において上位でなかったものの、第2回調査では3位、4位となった。他にも「接客・接遇に関する能力」「健康相談・栄養相談に関する能力」も第2回調査では上位に挙げられた。逆に、「食品・食事に関する知識・能力」、「レシピ・メニュー・調理法に関する知識・能力」は第2回調査では下位となった。

表11 薬品小売業で働く管理栄養士が職場において必要とされる知識・能力に関する第1回目と2回目の変化

求められていると感じる知識・能力	第1回調査 記録単位数	第2回調査 得点
コミュニケーション能力	16	185
健康食品に関する知識	16	151
カウンセリングに関する知識・能力	7	89
医薬品に関する知識	8	88
サプリメントに関する知識・能力	14	87
栄養指導・食事指導に関する能力	10	80
接客・接遇に関する能力	5	79
疾病と栄養・食事の関わりに関する知識	10	72
健康相談・栄養相談に関する能力	3	59
伝える・説明する能力	5	57
商品に関する知識	6	56
スタッフ育成・教育・指導に関する能力	3	52
販売に関する能力	3	48
医薬品の説明・販売・説明する能力	6	45
薬と食品・食事の相互作用に関する知識	5	40
育児に関する知識・能力	9	31
食生活・食事のアドバイスに関する能力	6	29
健康食品の説明・販売・比較に関する能力	4	28
栄養学・栄養・栄養素に関する知識	8	24
ダイエットに関する知識	3	20
健康指導・生活指導に関する能力	2	13
商品を提案する能力	2	12
病気に関する知識	6	9
介護に関する知識	1	7
常に学ぼうとすること	1	7
レシピ・メニュー・調理法に関する知識・能力	4	6
食品・食事に関する知識・能力	6	5
判断・マネジメント・規格に関する能力	3	5
情報収集・発信に関する能力	3	5
マーケティングに関する知識	2	0
病気・健康に対するサポートに関する能力	2	0
運動に関する知識	1	0
カロリー計算に関する能力	1	0
なし	1	0

## 4. 考 察

本研究の結果より、薬品小売業に勤務する管理栄養士の業務内容は、主に販売であり、その他に、商品の紹介や情報提供、POP作成、栄養情報の提供を行っていた。このような業務内容の中で、学生時代に学び、役立っている科目として、臨床栄養学、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論（栄養指導論）をあげていた。また、もっと学んでおけばよかった科目として、臨床栄養学、基礎栄養学、応用栄養学、解剖生理学をあげていた。

このことから、養成課程において、臨床栄養学、基礎栄養学を学んで役立ち、さらに学べばよかったと感じていることが推測できる。また、食品企業を中心とした企業に勤務する栄養士・管理栄養士を対象とした先行研究と比較すると、薬品小売業に勤務する管理栄養士は、栄養教育論（栄養指導論）を学んで役立っており、もっと学べばよかったと感じている傾向がみられた。このことは、日々の業務の中で、消費者らを対象として、栄養相談等を行っているためであろう。

研修会・勉強会へは、多くの回答者が参加しており、特に8割以上の回答者が社内研修へ参加していた。このことは、先行研究において企業で勤務する栄養士・管理栄養士では、社内研修への参加は47%であることから、薬品小売業に勤務する管理栄養士の特徴といえる。

次に、今後獲得したい商品知識について、2回連続の調査より、サプリメントに関する知識、医薬品に関する知識、育児用品に関する知識があげられた。第1回調査において、獲得したい資格がサプリメントアドバイザー、登録販売者、となっていることから、薬品小売業に勤務する者が、サプリメントや医薬品の知識を強く求めていることが示唆される。

職場において管理栄養士として求められていると感じる知識・能力については、2回連続の調査より、最も重要な能力はコミュニケーション能力であり、最も重要な商品知識は健康食品に関する知識だった。

コミュニケーション能力については、先行研究においても類似した結果が示されているが、その他にあげられた能力をみると、カウンセリングに関する知識・能力、栄養指導・食事指導に関する能力、接客・接遇に関する能力があげられており、これらは、消費者を対象

とした栄養教育を行っているからこそ得られた結果であろう。また、要求される知識としては、健康食品に関する知識、医薬品に関する知識、サプリメントに関する知識といった、今後獲得したい商品知識を裏付ける結果となった。

## 5. お わ り に

薬品小売業で勤務する管理栄養士は、多くが販売に従事しており、消費者と健康・栄養情報のやりとりを行っていることが示唆された。また、薬品小売業に勤務する管理栄養士において、必要とされる知識・能力の中に、「健康食品」、「サプリメント」とともに、「栄養指導・食事指導に関する能力」、「疾病と栄養・食事の関わりに関する知識」、「薬と食品・食事の相互作用に関する知識」といったカテゴリが示されており、これらの知識が、管理栄養士に対し求められている。このことは、日々の食事内容と、それを補うためのサプリメントの使用方法や、病院で処方された医薬品と、健康食品の食べ合わせなどの『複合的な知識』が必要とされている。

近年では、一次予防の観点から特定健診・特定保健指導の推進が行われており、セルフメディケーションの普及がめざましい。それらの広まりとともに、薬品小売業においては、医薬品を販売することはもとより、消費者の情報ニーズに対応できる人材が必要となるだろう。この健康・栄養に関する正しい情報発信をする専門職として、管理栄養士は適当ではないかと考えられる。

今後、管理栄養士が薬品小売業において活躍の場を広げるためには、本研究により明らかとなった健康食品に関する知識やサプリメントに関する知識についての学習機会の場合と、管理栄養士養成課程における臨床栄養学、基礎栄養学のさらなる充実が必要となるだろう。

アンケート調査にご協力いただきました、株式会社ザグザグ、株式会社ブプレひまわり、株式会社マツモトキヨシの管理栄養士の皆様、担当者の皆様に感謝いたします。

## 参 考 文 献

- 1) 全国栄養士養成施設協会：全栄施協月報，社団法人  
全国栄養士養成施設協会（2011）614, pp. 9-19.
- 2) 全国栄養士養成施設協会：全栄施協月報，社団法人  
全国栄養士養成施設協会（2008）578, p. 18.
- 3) 全国栄養士養成施設協会：全栄施協月報，社団法人  
全国栄養士養成施設協会（2009）590, p. 14.
- 4) 全国栄養士養成施設協会：全栄施協月報，社団法人  
全国栄養士養成施設協会（2010）602, pp. 11-12.
- 5) 大宮めぐみ：企業で働く栄養士・管理栄養士の実態  
と期待される能力に関する調査研究, 中国学園大学  
大学院修士論文(2010)
- 6) 大滝純司監訳：質的研究実践ガイド, 医学書院(2001)  
pp. 44 - 53.
- 7) 村田光二，山田一成，佐久間勲編著：社会心理学研  
究法，福村出版(2007) pp. 53-56.
- 8) 舟島なをみ：質的研究への挑戦 第2版，医学書院  
(2006) pp. 40-79.

